

参 考 手 本

満山春鳥啼く

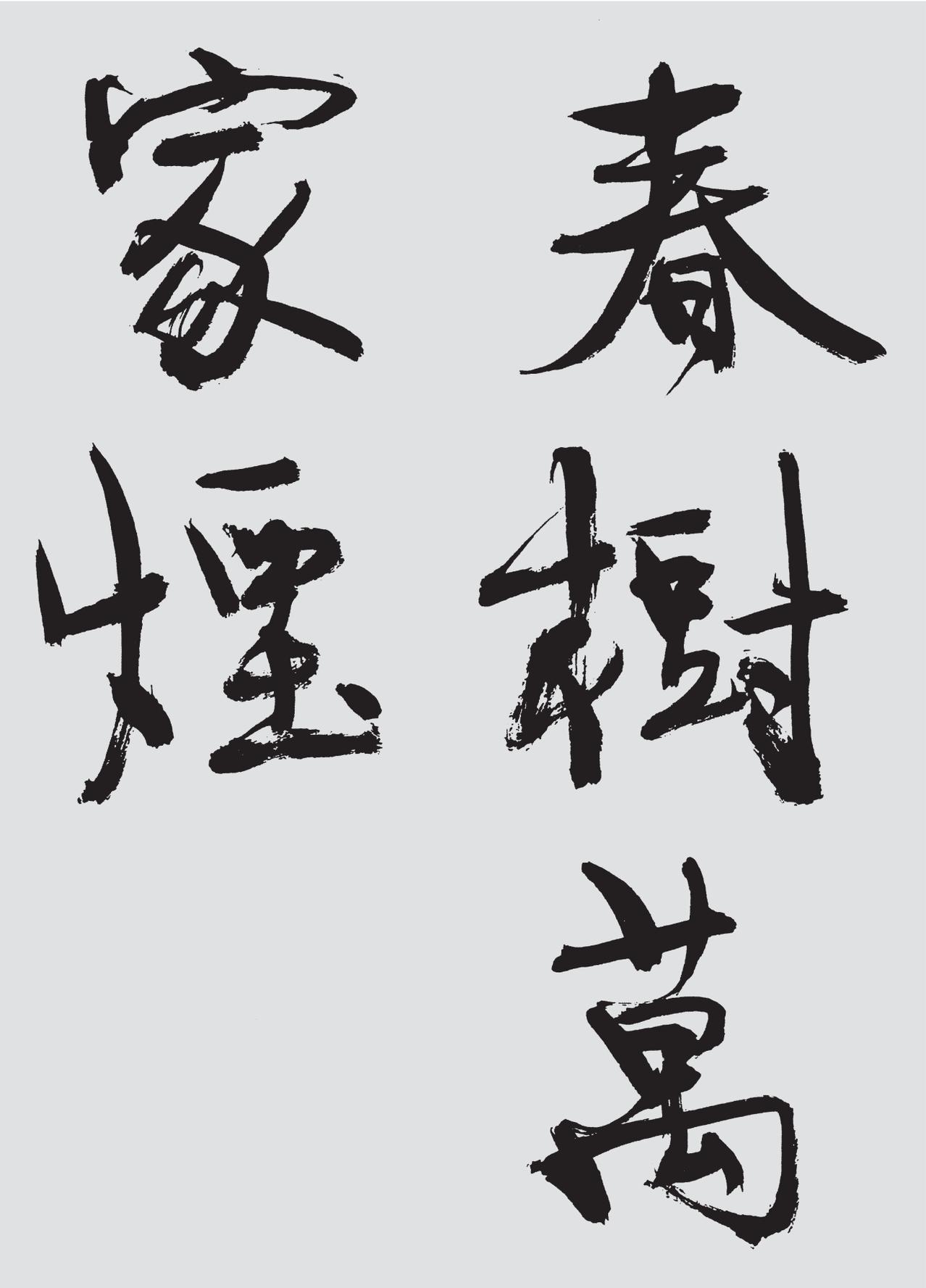


※これは規定課題ではありません。

高 木 聖 雨 先生

参 考 手 本

春樹萬家の煙



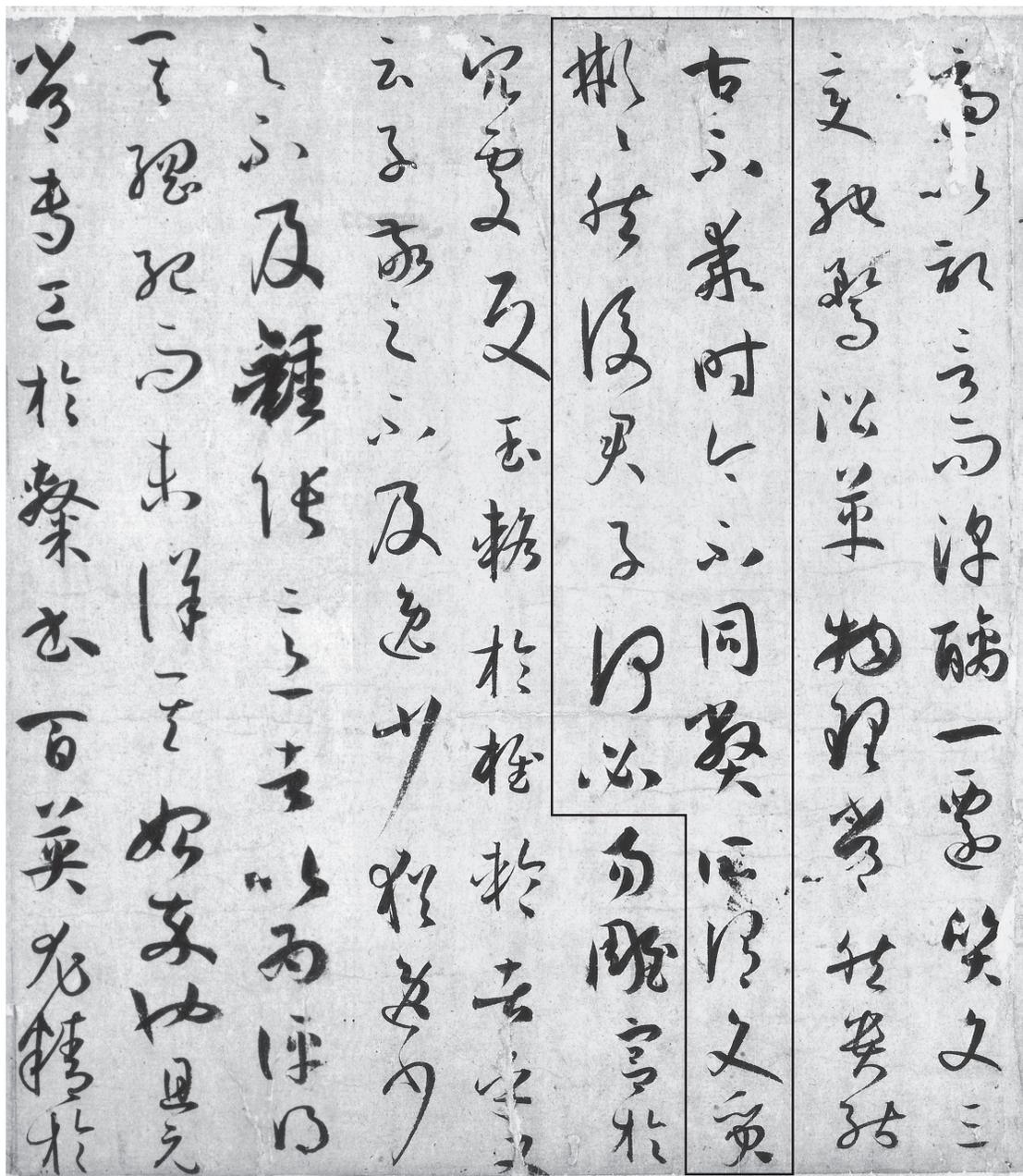
※これは規定課題ではありません。

成 瀬 映 山 先 生

条幅規定

A部 (準五段以上)

『書譜』⑪ 孫過庭



書譜

適以記言。而淳醜一遷。質文三變。馳騫沿革。物理常然。貴能古不乖時。今不同弊。所謂文質彬彬。然後君子。何必易雕宮於穴處。反玉輅於椎輪者乎。又云。子敬之不及逸少。猶逸少之不及鍾張。意者。以爲評得其綱紀。而未詳其始卒也。且元常專工於隸書。百英尤精於

適に以て言を記すと雖も、而れども淳醜は一たび遷り、質文は三たび變ぜり。馳騫沿革は、物理常に然り。能く古にして時に乖かず、今にして弊を同じくせざるを貴ぶ。所謂文質彬彬として、然る後に君子たるなり。何ぞ必ずしも雕宮を穴處に易え、玉輅を椎輪に反す者あらんや。又云く、子敬の逸少に及ばざるは、猶逸少の鍾張に及ばざるがごとしと。意者、以て其の綱紀を評し得たりと為すも、而れども未だ其の始卒を詳らかにせざるなり。且つ元常専ら隸書を工にし、百英は尤も草体に精なり。

【今月の課題】

「古不乖時今不同弊所謂文質彬彬然後君子何必」

(20字)

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

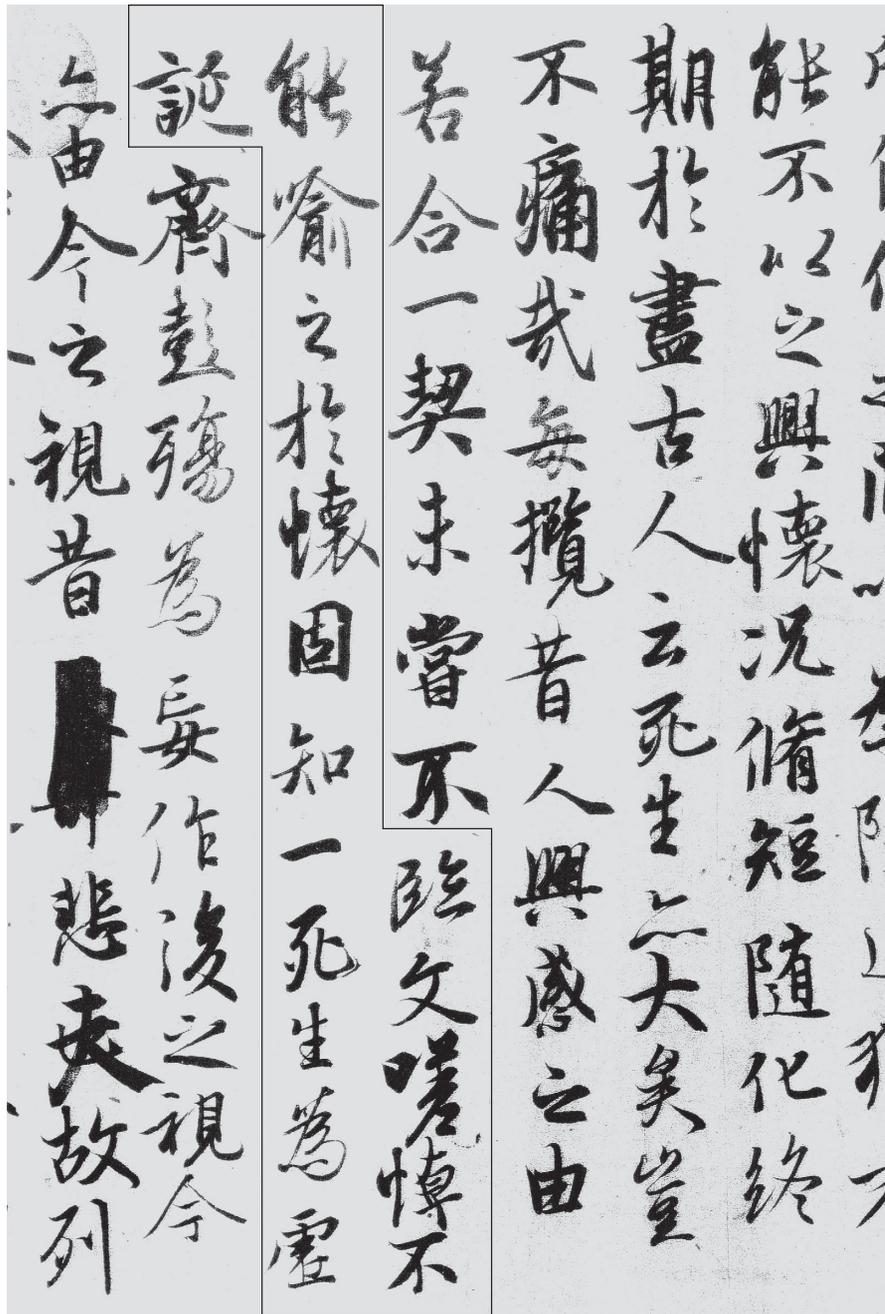
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(4月10日締切)

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』 王羲之（東晋）



能懷為虛誕

能不之興懷。況脩短隨化。終期於盡。古人云。死生亦大矣。豈不痛哉。每攬昔人興感之由。若合一契。未嘗不臨文嗟悼。不能喻之於懷。固知一死生為虛誕。齊彭殤為妄作。後之視今。亦由今之視昔。悲夫。故列

之を以て懷を興さざる能わず。況んや脩短は化に随い、終に尽くるに期するをや。古人云う、死生も亦た大なりと。豈に痛ましからずや。毎に昔人興感の由を攬るに、一契を合するが若し。未だ嘗て文に臨んで嗟悼せずんばあらず。之を懷に喻すこと能わず。固より死生を一にするは虚誕たり、彭殤を齊しくするは妄作たるを知る。後の今を視るも、亦た由お今の昔を視るがごとし。悲しいかな。

【今月の課題】

「臨文嗟悼不能喻之於懷
固知一死生為虚誕」

(18字)

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(4月10日締切)

半紙規定 (二)

后 動 色 我
固 色 我 后
固 色 我 后

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

色を動かす。我が后固く

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

動色我后固

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

都尉たり。曾祖父述は

半紙規定 (一)

父 尉 曹
述 祖
祖

曹全碑（漢・作者不詳）

尉曾祖父述

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（4月10日締切）

条幅参考手本

漢國山河在秦陵草樹深暮
雲千里色無處不傷心

渡 辺 景 雲 先生

漢國山河在 秦陵草樹深 暮雲千里色 無處不傷心

漢國山河在り 秦陵草樹深し 暮雲千里の色 處として心傷ましめざるは無し

景雲

主 幹 菅 野 翠 濤

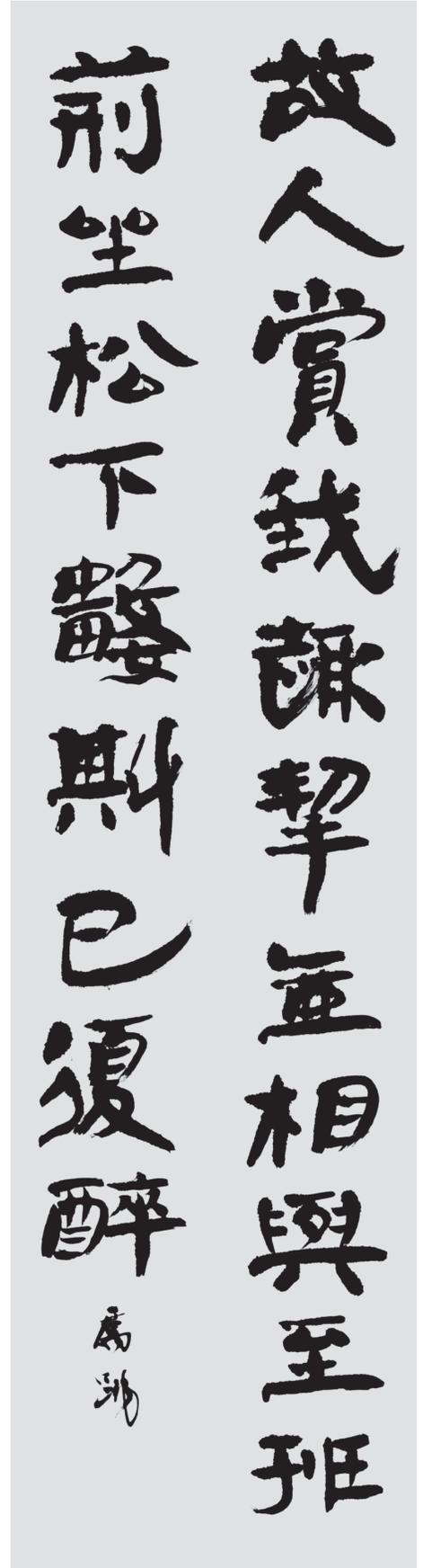
萬樹江邊杏 新開一夜風
園深淺色照在綠波中

萬樹江邊杏 新開一夜風 滿園深淺色 照在綠波中

萬樹江邊の杏 新たに開く一夜の風 園に満つ深淺の色 照して緑波の中に在り

菅野

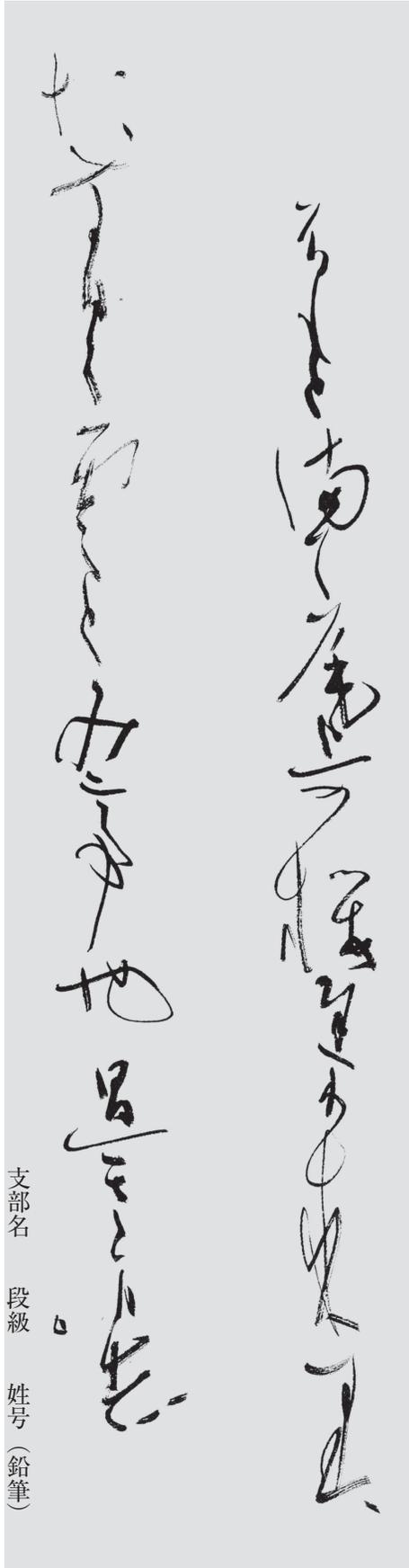
条幅参考手本



板垣 属 跳 先生

故人賞我趣 挈壺相與至 班荆坐松下 數斟已復醉
 故人我が趣を賞し 壺を挈げて相与に至る 荆を班ねて松下に坐し 数斟已に復醉ふ

条幅かな



浮乘 清郷 先生

ふもとまで 尾上の桜 ちりこずは たなびく雲と 見て やすぎまし (藤原顕輔)
不満 遅利 米寸盤 奈日久 み帝 過 万志

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆)

(4月10日締切)

半紙かな（1級以下）

鶯うぐいすのこゑ声速はやき日ひも暮くれにけり（与謝蕪村）

支部名
級
姓
号
（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

船久保 棠苑 先生

春暮はるくれて人ひとちりぬひとめり吉野山よしのやまはな花はなのわかれをおも思おもふのみみかは（西行）

支部名
段
姓
号
（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

浮乘清郷 先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（4月10日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

京都の家を離れて三、四月经つが
思い出に落涙百千行、すべて皆
昔の夢であり、天を仰いで晴々
想い出ず。菅原道真の詩より
支部 段級 姓 号

主 幹 菅 野 翠 濤

(4月10日締切)

細 字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より P45

主幹 菅野翠濤

笕	笕	笕	笕
滴	滴	滴	滴
冷	冷	冷	冷
瓜	瓜	瓜	瓜
竹	竹	竹	竹
簾	簾	簾	簾
吊	吊	吊	吊
鈴	鈴	鈴	鈴

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

笕 けん

滴 てき

冷 れい
かけいから水のしたたる様。
風鈴を吊るす。

(4月10日締切)

硬筆（1級以下）

2行、楷書

春の光が大地を満たし、花々が咲き
 誇る季節を迎えました。

支部名 級 姓 号

渡邊南嶂先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…景色が揺れて…一歩…未来…

芽吹いた木の先にまだ見ぬ景色も
 が揺れている。新しい一歩がやがて
 道になり、未来は開いていく。

支部名 級 姓 号

青柳江雲先生

※本院定型用紙・たて半分を書く

（4月10日締切）

新中2用

支部名	差	春
段級	し	の
名		日
前		

渡邊南嶂先生

新中3用

支部名	青	早
段級	空	春
名		の
前		

大越三宗先生

新小6用

支部名	の	記
段級		念
名	木	
前		

渡邊南嶂先生

新中1用

支部名	人	花
段級	出	見
名		の
前		

渡邊南嶂先生

(4月10日締切)

新小 4 用



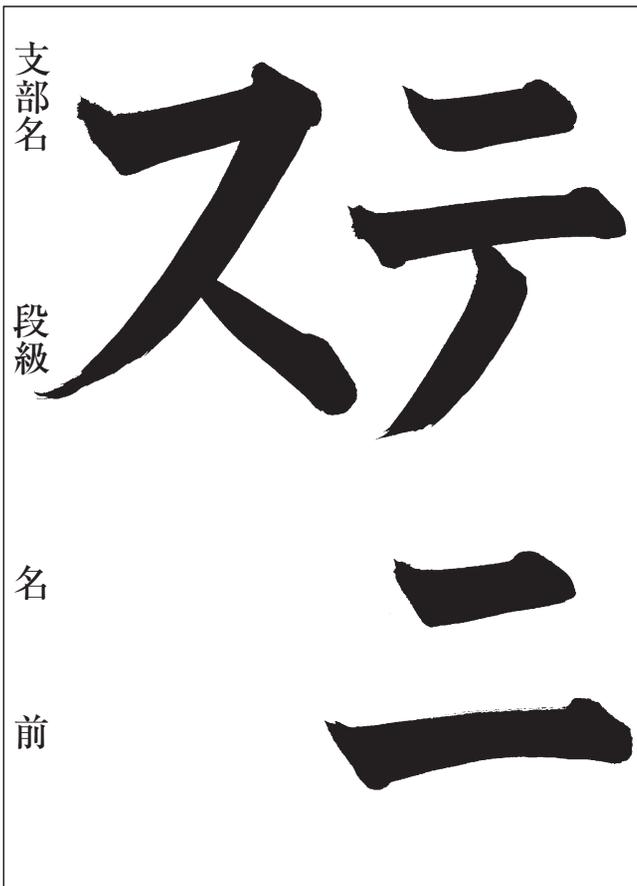
大越三宗先生

新小 5 用



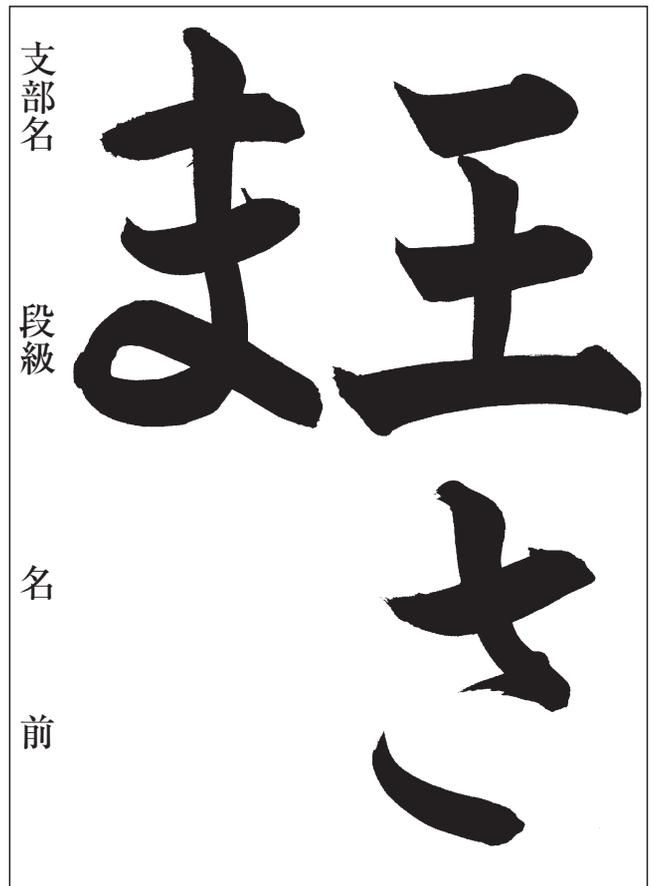
大越三宗先生

新小 2 用



鈴木翡翠先生

新小 3 用



鈴木翡翠先生

(4月10日締切)

新中1

季節の言葉を入れる。俳句では、季語という

新中1～新中3

新中2

何事もねばり強く行動するよう心がけたい。

青柳江

新中3

経験を積んだ者は、行ふべき道を心得ている。

雲先生

新小1・幼年用

支部名	
段級	
名前	
前	

鈴木蕙先生

新小1・幼年

ちもうすぐはる。ともだちふやしたいな。

新小1～新小3

新小2

しなの川が大きくなり、ずかにながれている。

鈴木蕙

新小3

春になり、あたたかな風がふいている。

翠先生

新小4

雪どけ水が音をたてて流れていきます。

新小4～新小6

新小5

早春に、山や野原を歩くのはとても楽しい。

田邊翠

新小6

雪国の人は、春が特に待ち遠しいものだ。

鶴先生

(4月10日締切)

新中学部かな課題

船久保 棠苑 先生

支部名 段級 名前

流れゆく
椿を風の押
とむ

新小学部新小筆課題

主幹 菅野 翠 濤

支部名 段級 名前

清らかな
水の流れ

※半紙半分を書いて下さい。(4月10日締切) ※半紙半分を書いて下さい。

5月10日締切課題予告

A部条幅規定 易雕宮於穴處反玉輅於椎輪者乎又云子敬之不

B部条幅規定 齊彭殤爲妄作後之視今亦由今之視昔悲

かな条幅規定 山さくら咲きそめしより久方の雲居にみゆる瀧の白糸(源 俊頼)

半紙規定(初段以上) 孝廉謁者金 半紙規定(一級以下) 懷搗挹推而弗

半紙かな(初段以上) 山ざとのかきねに春やしるからんかすまぬさきに鶯のなく(源隆国)

半紙かな(一級以下) ゆさくと桜もてくる月夜哉(鈴木道彦)

実用文 書が今日のように発達する為に直接強い影響を与えたものに筆墨紙などの用具の持つ特殊性も無視することはできません

一般硬筆(初段以上) 地球温暖化が進み、異常気象が日常になりつゝある。未来の為に自然の声にもっと耳を傾けよう。

一般硬筆(一級以下) 歌舞伎は長い歴史の中で工夫を重ね生き続けてきた伝統芸能です。

5月10日締切並びに前期昇段級試験学生課題5月15日締切予告

中三毛筆 母校の伝統

中二毛筆 美しい草木

中一毛筆 鳥なく山里

小六毛筆 庭の草花

小五毛筆 雲を見る

小四毛筆 五月ばれ

小三毛筆 子ねこ

小二毛筆 ツバメ

小一毛筆 みち

中学部かな 菜の花や昼ひとしきり海の音

小学部小筆 美しい 春の草花